

取手の良さ見つけ出す一助に

坂道5カ所に道標



勘右衛門坂の道標を除幕し、拍手する関係者—取手市小文間で

市民団体「取手の坂道愛好会」は、取手市小文間に点在する坂道5カ所に道標（高さ90センチ）を設置した。計約60万円の設置費用は市

市民団体「愛好会」市長ら招き除幕式

を眺めながら、取手の良さを見つけ出す道案内の一助になってほしい」と期待している。

同愛好会は2007年2月、市など道路管理者の許可を得て、取手駅周辺3カ所の坂に道標を設置。今回は第2弾として、同市小文間の県道と市道5カ所の坂に馬坂▽勘右衛門坂▽直右衛門坂▽大日坂▽動坂の道標を建設した。19日には、勘右衛門坂に藤井信吾市長らを招き、道標の除幕式を行った。

福永寺脇の勘右衛門坂と東谷寺西側の直右衛門坂は近くの旧家の名前で、大日坂は近隣

の大日堂から名付けられたという。また、馬坂は馬頭観音に由来するとされるものの、酒井さんは「昔、馬車が通っていたのでは」と想像する。「動坂」の由来は不明。道標を手がかりに坂道や周辺を散策し、思いを巡らせることもできそうだ。

同愛好会によると、猿島台地東端に位置する取手市は利根川と小貝川に挟まれていることから、川の氾濫で台地が浸食され、入り組んだ地形となり、坂道も多くなっているという。同愛好会の調査では、市内の坂道は約400カ所。酒井さんは「今後は行政主導で道標を設置してほしい」と話している。

【安味伸一】